



CFI ニュースレター C2023-07 「潤った園のように」

[今月の聖書]

神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造この方、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。

そして、彼らは神を認めることを正しいとしなかったので、神は彼らを正しからぬ思いに渡し、なすべからざることをなすに任せられた。(ローマ 1: 20、28)

天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。

神のなされる事は皆その時に叶って美しい。神はまた、人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終わりまで見極めることができない。(伝道の書 3: 1、11)

すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、彼らは働なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いによって義とされるのである。(ローマ 3: 23、24)

私が選ぶところの断食は、悪の縄をほどき、くびきのひもを解き、虐げられるものを放ち去らせ、すべての軛を折るなどのことではないか。また、飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者をあなたの家に入れ、裸の者を見て、これに着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどのことではないか。そうすれば、あなたの光が暁のように現れ出て、あなたは速やかに癒され、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。(イザヤ 58: 6-8)

主は常にあなたを導き、良きものをもってあなたの願いを満ちたらせ、あなたの骨を強くされる。あなたは潤った園のように、水の絶えない泉ようになる。(イザヤ 58: 11)

あなた方は、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが喜びなさい。何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごと感謝をもって祈りと願いとを捧げ、あなた方の求めるところを神に申し上げるが良い。そうすれば、人知では到底測り知ることのできない神の平安が、あなた方の心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。(ピリピ 4: 4-7)

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「潤った園のように」と題してイザヤ書 58 章に書かれている満ち足りた人生の姿を学ばせていただきたいと思います。信仰を持って生きる者にとって、理想的な人生とは①神に導かれること②祈りの結果必要なものが全て与えられること③肉体的にも精神的にも強くされること④常に美しさと魅力を持って輝くこと⑤砂漠のような現代社会にあって、いつも水の絶えない泉のように真理を宣べ伝えるものとなること、と書かれています。果たしてそのような人生は可能なのでしょうか。聖書は、私たちがみ言葉に従って与える人生、愛に満ちた人生を過ごすならば、これらの事はイエス・キリストによって皆可能であると宣言しています。

さて、最近寄せられたお手紙から親しい友人である S さんの質問に答えながら、このテーマを取り扱いたいと思います。彼は 90 歳であり、奥様はクリスチャンですが、ご自分は仏教徒であると告白しています。しかし、長い間教会の礼拝に通い、私と共にヘンデル作曲「メサイア」の公演のために尽力してくださいました。ですから、神の約束の成就として地上にこられたイエス・キリストが救い主であるというメッセージは充分理解しておられます。ただ彼自身の心の中にイエス・キリストの救いの事実は体験されていないのです。宗教についても信仰についてもそれなりの知識を持っておられます。世界の平和のために祈る心を強く持っておられます。そして今人生の終末が近づいていることを意識し始めています。時間が残り少ないのです。

しかし、このような真剣な叫びを持っている方が、あなたのご家族や友人にもたくさんおられるのではないのでしょうか。ぜひ今日、心の中に聖書の神の救いの言葉を受け入れていただき、「神様私を救ってください」と祈る時を持っていただきたいと思っています。

(お知らせ)

*9月18日(月)大阪クリスチャンセンターにおける「喜びの歌を共に大阪集会」のご案内を申し上げます。神を信じているという事は、神を賛美することです。参加可能な方はぜひおいでください。また遠くの方もぜひお祈りしてください。

最近のお手紙から



「偉大なるXとは何か」三東章男(東京都)

私は毎週、妻とともに教会に行っておりますが、キリスト教信仰がよく解りません。神学大学の教授である牧師先生の福音書のお話を聞くと、イエスの奇跡などについて何えば何うほど疑問が湧いてくるのです。友人の浄土真宗の僧侶の親鸞の話を知ると、心にしっくりと入ってきます。しかし、とうとう90代になりまして、70代、80代とはまた一味違う変わっていく自分を感じております。

近年15年間にわたり、小田先生とメサイア公演をさせていただき、それまで持っていたキリスト教観とは違うイメージを持たせていただきました。小田先生は、私にとっては駆け込み寺なのです。そこで初歩的なことから、遠慮会釈なく伺っている次第です。ただ残り時間がだんだん少なくなってきましたし、毎年親しい友人の旅立ちが多くなってきましたので、何とかもう少しスッキリしたいものだと思ってお手紙をした次第です。

「信仰とは90%の疑いと、10%の希望を持つこと。ただし決して大いなるもの(神、仏、大宇宙、父、母、自然など)に指を向けてはいけない。」とは、遠藤周作の言葉です。その大いなるもの「X」が今でもわかりません。しかし人は一人では生きられず、多くの方々や、家族、友人に支えられ、無意識のうちに背中を押してくれるXの働きがあると思っています。

まったく私事ですが、私にとって大きな存在と言えば、母の存在です。戦後すぐ父をなくし、私を含む3人の子供を抱え、世の中大混乱の中で、明るく生活を支え、現在子孫20名を作り、92歳で旅立ちましたが、母の存在なくして、今日の私はおりません。私の隣には、今でも母が寄り添い、見守り、またその後には、はるかに大きなXが導いていてくださっていると思います。

日本人だからかもしれませんが、幼稚な質問を列記しました。ご指導ください。



①人類の歴史は、戦争の歴史です。特にキリスト教やイスラム教など一神教が国教である国々においては、現在もお戦いが続けられています。他方、仏教国における戦争は、大部分が侵略的野望の戦いであり、宗教が絡むことが極めて少ないと思います。

②聖書には神は全能であり、すべての善悪を極め、愛をもって人を導き、多くの奇跡をもたらしていると書かれています。ならば、過去現在の人々の苦しみの中で、祈りに対してどのように手を差し伸べているのでしょうか。核兵器の増大、原爆投下、ロシア、ウクライナの戦争など、たくさん問題に対して人々の祈りは全く通じませんね。何か虚しくなるのです。

③キリスト教はなぜ日本人に受け入れられないのか。砂漠の中で生まれた唯一神宗教と、自然豊かな山や草花全てに神が宿る多神教との違いか。

④キリスト教の父なる神と、仏教の阿弥陀如来、イスラム教のアラーなど。神とは何なのか。

⑤三位一体はどなたが考えた原理なのですか？礼拝の時に唱和する使徒信条が分かりません。皆様わかっているのでしょうか。

⑥「罪をお許してください、悔い改めます」などの言葉が多いのですが、日常生活においては他を思い、努力する方が必要だと思います。

⑦現在ウクライナとロシアは戦争の最中ですが、祈ることや、救助活動も必要ですが、ローマ法王を始め、世界の宗教界の指導者たちが、プーチン氏、ゼレンスキー氏と対面して死を覚悟して、戦争中止の声を届けるべきなのでしょう。かつてナチスドイツによって迫害されたユダヤ人に代わって、身代わりの死を遂げたコルベ神父(友のために死するより大いなる愛は無い)これこそ神のわざだと思います。今こそ宗教界の出番です。